

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信24号

2011年（平成23年）3月11日14時46分の『東日本大震災』より3週間が過ぎ、余震の続く中、家のかたづけを少しずつ始めました。

息子の勝田養護高等部の卒業式を終え、家に入った瞬間に揺れが始まりました。88歳の親父の確認、そして中学校を卒業した娘を探して二階に駆け上がる。

その間にも部屋の筆筒、本棚、あらゆる物が倒れ行く手を塞いでいく、揺れの凄さで階段が登れない、壁に掴まりながらやっとの思いで娘の部屋へたどり着く。

娘を呼ぶが、返事が聞こえない、娘の返事を確認、しかし、倒れた家具で部屋へは入れない姿も確認できない、怪我は無い模様、やっと安心。

急いで一階に向かい親父の安全を確認する、部屋の中は数十秒前より酷い様相になっている、女房が玄関より入ろうとしていたので外にいるように怒鳴る、下駄箱も倒れていて危険。

卒業式を終えた息子は車の中との事一安心、揺れが治まったので再び二階へ、本棚、家具が倒れ入ることが出来ないで娘の顔の見えない、動けるとの事なので窓から屋根に出て隣の部屋へ入ってくる娘を待つ、改めて娘の無事を確認する。

娘は揺れと同時に勉強机の下にもぐったとの事、あらゆる物が倒れ目の前に降り注いだとの事、一人部屋で恐怖の時間を耐え抜いた15歳である。

何がどうなっているのか分からないので、家の近くを歩いてみたら、神社の土台はズレ、社務所は倒壊し、里川橋は橋桁が折れ、橋は東にずれ動いている。



私の町内では、この震災で20軒強の家屋、物置などが倒壊または、傾いてしまった。そして、屋根瓦の破損、塀の倒壊は数知れずである。

みなさんのお宅は大丈夫でしたか、私は家の修理、かたづけの毎日です。息子の大好きなテレビも倒れて壊れてしまいました。テレビの無いつまらない生活を息子は送っています。

みなさんのお子さんには、地震時における身の守り方の教育はしていましたか。残念ながら私自身何も教えていませんでした。反省仕切りです。

やらなければならない事が山積みの毎日です。

そんな中、元気に通所施設に通う息子に一安心、また、この様な大震災時にも息子を面倒見て戴ける通所施設に感謝いたします。

東日本大震災で被災された皆様には、謹んで地震災害のお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信 25 号

平成 23 年 4 月 21 日、常陸太田市手をつなぐ育成会定期総会が常陸太田市自然休養村管理センター大会議室にて開催されました。

定期総会は、菊池会長により総会の成立が宣言され、そして会長あいさつ、来賓の安田保健福祉部長兼福祉事務所長あいさつと続き、会議事項の報告第 1 号の平成 22 年度事業報告、議案第 1 号収入支出決算認定、議案第 2 号平成 23 年度事業計画、議案第 3 号平成 23 年度収入支出予算、その他、について審議されました。

また 4 名の賛助会員の方に出席をいただきました。あらためて御礼申し上げます。

閉会後は昼食をしながら懇親会を開き、会員相互いろいろなお話が出来たものと思います。

常陸太田市保健福祉部社会福祉課障害福祉係事務内容紹介

- (1) 身体障害者福祉法,知的障害者福祉法,精神保健及び精神障害者福祉に関する法律及び児童福祉法に基づく援護及び支援に関すること。
- (2)障害者自立支援法に基づく支援に関すること。
- (3)戦傷病者特別援護法に基づく援護に関すること。
- (4)心身障害者扶養共済に関すること。
- (5)人にやさしいまちづくり事業に関すること。
- (6)心身障害児福祉手当に関すること。
- (7)障害児福祉手当及び特別障害者手当等に関すること。
- (8)特別児童扶養手当に関すること。
- (9)障害者計画及び障害者福祉計画に関すること。
- (10)障害福祉施策の企画,調整及び推進に関すること。
- (11)障害者福祉施設の整備等に関すること。
- (12)障害程度区分判定審査会に関すること。
- (13)身体障害者手帳の交付等に関すること。
- (14)その他障害者福祉施策に関すること。

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信26号

2011年(平成23年)4月11日17時16分又しても地震、毎日起こる地震、しかし今日の地震は余震とはいえ凄い。ズボンを買いにしまむら太田店へ行った。空模様は今にも雨が降り出しそうだ。まだ5時だというのに、真っ暗になっている。凄く嫌な気分だ。不気味な空。「早く買い物をして帰ろう。」そんな事を思いながら店内に入る、紳士者のコーナーに着いたその時、3月11日14時46分18秒におきた東北地方太平洋沖地震がもう一度きたかと思うような地震、身の回りの全ての物が暴れだす。

全面ガラス張りのウインドーそしてガラスのドア、近寄るのが恐ろしい、ガラスが滝のように降り注ぐのではないかと、躊躇する客、しかし、店員さんの「皆さん非難してください。」「頭の上の物に気をつけてください。」「皆さん急いで非難してください。」の声に後押しされ客は全員店外へ脱出する。

3月11日に車のショールーム3面ガラス張りの破壊跡が頭を過ぎった瞬間だった。

店員さんは客が店内に居ないのを確認して最後に脱出してきた。

避難誘導の教育の素晴らしさは見事である。

家へすぐに電話をするが繋がらない。

車で急いで家へ帰る、家族の無事を確認する、やっと安堵。

西さんより電話、東京に居るとの事、息子さんへの携帯電話が繋がらないので安否確認が出来ないとの事、我が家の黒電話も繋がらない、急いで公衆電話に行き息子さんに電話する、安全元気確認、西さんに直ぐ無事を知らせる。

空は雷、風も凄い、雨霰、嫌な感じの夜の始まりだ。

この日の夜は地震がつづき12日朝9時までには震度3以上の地震が55回あったとの発表がある。地震の度に目が覚めた夜だった。

勝手に通信25号で私の地震体験記を書いたが、賛助会員である西さんも地震体験記を書いていました。許可をいただきましたので皆様にも読んでいただきたいと思います。

心温まる話が書かれていますよ、そして、地震被災の中でも笑える話もかかれています。

家族愛にあふれた地震体験記をお読みください。

我が息子、元気に通所施設に通う毎日に一安心、家に帰り、地震があるとすぐに家具調コタツの中に隠れる毎日です。

地震時における身の守り方は、妹が机の下に隠れた話を聞いてはじめた息子です。と言いたいのですが、いつもテレビをみると体がコタツの中に半分入っているので、怖がって隠れるようです(笑笑笑笑笑笑笑笑笑笑)まあーこれでもいいかな？



常陸太田市玉造十字路付近 常陸太田市293号里川橋通行止め

東日本大震災で被災された皆様には、謹んで地震災害のお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

東北関東大震災

2011年 3月 11日 (金曜日) 2:46PM 最大震度 7

震度6強 (日立) 震度6弱 (水戸)

{DAY 1}

2011年、3月11日、朝10時半頃だったと思います。私は息子二人と共に、水戸へと車で出発しました。二男の用事で水戸の南口にある場所へ出かけました。用事のあった建物の隣に、食堂があり、私達は少し早目の昼食をとる事にしました。時間は確か、11:40頃だったかと思います。店内はまだ空席が目立ち、私達の他には、2、3人のお客さんしか居なかった事を記憶しています。私と息子達はお腹いっぱいにお昼ご飯を詰め込んで、満足感を感じていました。私達がお店を出る頃には、店内はお客さんで溢れかえっていたのを記憶しています。

昼食を取り終えた後、隣のビルの一階にあったお店で用事を済ませて、今度は水戸の北口にある、UFJにむかいました。UFJの裏手に位置するコインパーキングに車を駐車しました。車の中に、犬のPJを残して、銀行へ行きました。二男の口座を作る為に、彼を銀行に残して、長男と私は時間をつぶす事にしました。

銀行には、多くのお客さんが順番待ちをされていて、二男の順番はまだまだ先延ばしになっていました。私は近くのコンビニで、現金をおろして、長男と共に愛犬のPJの様子を見るためにコインパーキングに戻りました。PJを連れて、二男のいる銀行の辺りへ行き、銀行の入り口でPJと共にしばらく待ちましたが、それでもなかなか二男が銀行から出てくる気配が無く、長男と共に、PJを連れて、車に戻りました。外はまだ寒いので、車の中で、PJと長男と一緒に二男の帰りを待っていました。

他愛もない会話をしていた時の事です。車が小刻みに揺れ始めました。

私：あれっ？これってPJ？(PJは車の後ろのケージに入っています)

長男：そうだよ、さっきもPJうるさかったし、、、、。

一旦、収まりかけたと思った車の揺れが、あれよあれよと言う間に、左右上下にゆれはじめました。

私：くに、これ違うじゃん、地震だよ、やばい！

長男：うわっ、まじやべー。

車の窓から見える周囲の建物も電柱もグラグラと揺れていました。

この時いくつか会話はしたのですが、覚えていません。

急いで長男と私は車を出て、車から離れて駐車場の入り口近辺に立ちました。

一旦収まったかに見えた地震が、またもや始まりました。立っているだけでも、大変な揺れ方で、コインパーキングの周り(多分12台程度が駐車できる駐車場に停まっていた車は4、5台だったと思います)に立っている電柱は、今にも倒れるかの勢いでゆらぎ、アスファルトの地面はまるで水面かトランポリンの様に、波を打っていました。ふと、視線を遠くに投げると、私達の視界に入る、住宅の屋根が真ん中から折れて、家の瓦がまるで、水の流れの様に、ザーザーっと大きな音と共に流れ落ちました。二軒の家が殆ど同時に崩れました。

私達の立っている場所の道を挟んだ向かいの建物からも、壁が崩れ落ちました。何人かの人、建物の中から、出てきました。道には既に崩れたがれきが散乱していました。

長男：お母さん、此处で待ってて、俺、純の事見てくるから。

私：分かった、気をつけてね。

私達の他に、一人の女性がいました。私の手は震えていました。その震えはなかなか止まりませんでした。女性は車を出して、車で去りました。しばらくすると、長男が走って戻ってきました。

長男：純の順番がまだなんだって、どうする？

又、揺れました。

私：いや、もう帰ろう、家が心配だから、猫の事も心配だし、私は地震で停電になると車が出せないから、車を出して此处で待ってるから、純を呼んできて！

長男：分かった！

私は震える手で、財布からコインを取り出して、駐車料金を払い、急いで車を移動させました。車を移動させている間も余震がありました。

((一体、何が起きてるの?)) 頭の中は混乱をしていて、とにかく息子達を連れて、家に向かおうとそれだけを考えていました。

息子達は小走りで、駐車場に戻ってきました。

二人を乗せて、私は直ぐに車を発進させました。車道にはがれきが散らばっていました。車の数がだんだんと増えてきました。水戸の市外に出る道はすでに、ところどころ段差ができていたり、水道管が破裂した為に水浸しになっている個所が何ヶ所もありました。私達三人は、それぞれに、この地震が普通ではない事を感じていました。駐車場にいる時から東京にいる主人がメールをよこしてきました。津波が来るから、川には近づかない様に、気をつけて・・・などなど・・・

水戸から日立へのルートは国道6号線を通る訳ですが、水戸を離れる時は那珂川を越え、その先には久慈川があります。那珂川の橋は段差が出来ていましたが、橋の距離は短くて、車の数もまだそれほどではなかったので、スムーズに通過ができました。色々な所に崩壊した個所が目にはいりました。

6号線に入る頃には車の数が多くなり始めていましたが、まだそれ程ではありませんでした。ただし、怖かったのは余震でした。結構強い余震が続いていて、車を運転していても、揺れを感じていました、なるべく道路の中央分離帯に近い側の道を走らせて、安全運転と共に、電柱が倒れるのでは？高架の下を走る時も、余震が起きない様に、と心の中で折りながら、信号機が停電しているので、交差点でも左右を注意しながらの運転でした。

勝田を過ぎる辺りから、車の数が急に増え始めました。東海に差し掛かる頃には道路は酷い渋滞を起こすようになっていました。東海を超えた辺りに久慈川があります。車の中でラジオを流しながら、運転を続けました。ガソリンスタンドは停電で全滅、ガソリンが無くなる心配もでてきました。

渋滞で殆ど前に進めない時は、ギアをニュートラルにしたり、エンジンを切ったりしました。車道から見える大谷石でできた塀は、ほぼ全滅していました。石で出来た灯籠もごろごろ落ちていました。古い

家屋も全壊、半壊している家が多く、ファミリーレストランもいくつかは壊れていました。

東海を走り始めたころから渋滞はますます酷くなり、日も暮れ始めました。車道の脇を帰路につく人々の姿が目につくようになりました。暗い、電気の無い道を多くの人達があるいて家路に向かってひたすら歩いていました車道は車が走っているので、車のヘッドライトが街灯代わりになっています。中には女子学生の姿も多くありました。車に乗せてあげたくても、逆方向に歩いている人が多くて、それはかないませんでした。ガソリンも足りるかどうかも分かりませんでした。

さて、久慈川の橋が見えてきました。渋滞でなかなか進めません。橋の上に差し掛かって、橋をぬけるまでの時間はとにかく緊張をしました。

((お願いだから、揺れないで))

橋を渡り終えたところで隣の車線に目を落とすと、ひび割れが入っていました。

余震は連続的に起きていましたから、緊張の糸はピーンと張り詰めたままです。

((津波は?))

ラジオは余震と津波の警報をつねに流している状態です。車に乗って、綱渡り?をしている様な緊張感が続いていました。携帯に心配メールが配信されていましたが、電池も残りわずか・・・。

はたして、橋を渡り切った時の気持ちは忘れられません。橋を渡り切った辺りで、息子達はトイレに行く為下車、草むらで用を足して戻り、常陸太田の常磐高速インター近くのローソンが一件だけ、お店を開けていました。私はそこで、トイレを借りて、とりあえず手に入る物を探しました。トイレは真っ暗で、手探りで用を足しました。お店の中もちろん真っ暗です。飲み物を選ぶのに、暗くて分からないで困っていると、近くの男性が、ライターの火を近づけてくれました。お店の中では数人の店員の女の子が携帯の計算機と懐中電灯を使って、一生懸命に接客、会計をしていました。お客さんはちゃんと列に並んでいました。中には、万引きをしている人も居たのかも知れませんが、私の見た人々はとても優しくて、礼節をわきまえた行動をしていました。それは、心温まる光景でした。

私の前に並んでいた女性は自宅の納屋が倒壊したとの事でした。

犬のPJは車の中で、嘔吐していました。

私達は再び、車に乗って自宅へ向かいました。渋滞は日立の外れの石名坂迄、続いていました。石名坂の入り口の道路が、15~20センチ程、段差が出来ていて、その為の渋滞であった事がわかりました。石名坂を過ぎたら、急に車が走り出しました。相変わらず、電気の無い街の中を人が歩いていましたが、そこから自宅までは、スムーズに走りました。日立に入っても塀は壊れているものの、水戸市内の被害程では無い事を感じました。((海岸ぞいはわかりませんが))

自宅に到着したのは既に夜でした。通常ならば、車で45分程の距離を5~6時間かけて帰った事になります。無事に家にたどり着き、向かいの家の人達が車の中で避難をされていました。少し会話を交わした後、自宅に入りました。勿論、明かりは全くありません。玄関の扉を開けて、猫の名前を呼びました。とにかく、懐中電灯を探して、リビングに入り、足の踏み場の無い状態に三人共、おどろきました。

私：いや~何これ、大変な事になってる！

息子達：うわ～すげ～、やばくない？

中でも一番凄惨状態だったのは、台所でした。割れた食器、調味料、全ての物が散乱していました。私が、ろうそくを探していると、二男が面白い物を発見しました。

二男：お母さん、ろうそくは火を使うから危ないから、やめた方がよいよ。あつ、庭のソーラーライトを使えば？

幸い、庭には、夜中に犬のおしっこをさせる為に10本程のソーラーライトを使っていたので、それを家の中に持って来て、使う事ができました。そして、もう一つ、私は見つけました。魚釣りの時に、夜釣りをする為に買ったヘッドライト。実に、役立ちました。

猫は4匹共に無事でしたが、4匹共にがたがたと体を震わせていました。彼等はどれほど怖い思いをした事でしょう。しかし、家が壊れなくて、外へ出て、行方不明になったりして居なかった事が良かったと実感しました。

余震は連続的におきていました。

今まで、役に立たないと思っていた、防災ラジオが唯一の情報入手の道具でした。私達はダイニングテーブルの下に布団を敷いて、服も、靴も履いたまま、その日は寝ました。余震が断続的に続いていたので、その度に目を覚まして、寝たのか寝てないのか分からないまま次の日の朝を迎えました。

2011年3月12日(土)

{DAY 2}

朝日がさす頃には既に目が覚めました。

明るい日差しが入った家の中の様子、全様が目に入りました。私も息子達も、ただただ、茫然と見つめるしか無い状態でした。割れたガラスが散乱しているのは勿論の事、本当に足の踏み場が無い状態でした。一体、どこから手をつけたら良いのかも分からない状態でした。とりあえず、ガラスを始末しなければいけません。掃除機は勿論使えませんから、大きな破片は手で取り、小さな破片はコロコロ？粘着テープを使って片付けました。

三人で庭に出て、ボーっとしていると、近所の人達も、同じようにボー然としゃがんでいました。

主人から連絡が入りました。主人が自転車で、東京の秋葉原から自転車を使って日立に来ると言いました。(最初は歩いて来ると言いましたが、流石にそれは無理だと感じたのでしょう)私は、来なくても良いと言いました。(東京に居て、必要な物を持って来て欲しいし、とにかく危険なので、心配でした)

結局、主人は会社の従業員の人の自転車を借りて、日立へと出発してしまいました。東京から日立は150km～160キロはあります。実は以前に親子三人で自転車で東京～日立を走った事があったので、可能だと思ったのだと思います。彼の、家族を思う気持ちを知る事ができました。(しかし、私は心配でした)

私：まったく、地震と津波の心配に、パパの心配まで加わったわね。

長男：しょうがないよ、家族の事が心配だったんだよ～。

二男：大丈夫かなあ～？

余震は相変わらず、続いていました。とりあえず、息子達は近くのコンビニやら、周辺を歩き、避難所

へも行って、情報を入手して来ました。水の配給がある事が分かり、10リットルの水を貰って来ました。私は家の中に、食料がどの程度あるのかを調べました。水はたまたま、数日前に湧水を汲んでいたものがありました。お風呂には、お湯が残っていました。冷凍庫の中の物はまだ、完全に溶けていなかったもので、とりあえず、冷凍庫の中に残った物から食べ始めようと思いました。

冷凍庫の中には、年末年始で余った食材が入っていました。後で、笑い話になりましたが、こんな緊急事態に、食べた私達の食事は、エスカルゴ、ローストビーフ、ラビオリ、プディングパイ、リゾット、その他、(笑) 何とも、豪華？な緊急の食事でした。

後日、他の人の話でも同じような話がありました。ステーキだとか、肉類を悪くなる前に食べないといけないので、結構、みなさん、お正月の残りを食べた様子です。

携帯電話は充電が出来ないので、殆ど役に立たなかったのですが、緊急の回路？なのか、固定電話だけは、受ける事ができました。こちらから掛ける事は出来ませんでしたので、こちらからかける時は公衆電話を使いました。(これは、息子達が見つけた)

主人が夜中にどこまで来ているのかが分からないので、息子が私の兄と主人の従兄に頼み、主人の携帯に、夜遅くなる様なら、何処かの避難所に泊ってから来るように、とメールを送ってもらいましたが、とにかく連絡がうまくつきませんでした。結果は、夜中の9時か10時頃、主人はなんと、150キロの道のりをペットボトル1本の飲み物と、おにぎり1つを食べて、日立の自宅に到着しました。家に到着すると、彼の足は両足共に、つってしまい、玄関にひっくりかえりました。

私：あら～、大丈夫？凄いいじゃん！

息子達：お父さん、すげ～！この前の時より、早いし、良く来れたなあ～！

主人：疲れた～、いててて、足がつつた！

主人が無事に日立に到着をして、我が家は例の食事を家族で食べました。(笑)

家族全員が揃った事で、ようやく本当の安心を実感しました。結婚も悪くないものですね。もともと、家族の仲は良い私達でしたが、家族が揃った事で、家族の絆をしみじみと感じた瞬間でした。

その日も、余震は断続的に続いていました。

2011年 3月13日(日)

{ DAY 3 }

昨日から、友人や兄達から、心配の電話が入る様になりました。それは、本当に私達の心の支えになりました。何かいる？大丈夫？そんな言葉がどれ程、私達に取って心強く、はげましてくれたことか。嬉しくて、有難くて、心の底から、感謝の気持ちで一杯になりました。口では、大丈夫、と言いながらも、心の底の片隅では、不安な気持ちがもやもやと息づいていました。

私は皆に、頼みました。今は何も必要ないけれど、良ければ、定期的に電話だけを入れてほしいと。万が一、の時に、こちらから連絡出来ない以上、何とか、連絡を持ってられる事が、私達に取ってはとても重要な心の支えでした。

((電話を、メールを下された皆さん、本当にありがとう))

お金では買えない物(心)を実感すると同時に、本当に嬉しかったです。

言葉では言い尽くせない程の感謝の気持ちが、心の底から、湧きあがりました。皆さん、本当にありがとう。ありがとう。ありがとう。・・・・・・・・

朝、6時30分頃、息子達は家から一番近いスーパーマーケットへ食料の買い出しへ行きました。少し遅い時間に、私もコンビニへ行きました。コンビニには既に40人程の人が並んでいました。ようやく、順番が回って来て、店内に入った所、予想通り、棚には殆ど何も残っていませんでした。それでも、飲み物や、お菓子や、体を拭くペーパーを買い、大きな袋を持って帰りました。

((まるで、戦争中の買い出しかしら、戦争中よりましだけど・・・・・・・・))

家に帰って、息子達と戦利品を見せ合いました。大した物はかえませんでした。家に残った食料品を加えたら、数日間は大丈夫だと思いました。

近所の人達と物々交換をしたりもしました。近所の人達もお互いに助け合い、近隣の人との付き合いの大切さも実感をしましたし、良かったと感じました。

食事は一食、あとはお菓子を食べました。皿にはラップをかけて、割り箸を使い、水は貴重なので、カップラーメンも後に回し、冷凍食品をカセットコンロで温めて食べました。トイレはおしっこはそのまま、大便是バケツにビニールの袋をかぶせて、そこで用を足して、新聞紙をかぶせました。調理器具はなるべく、フライパンを一つだけ使い、順番に調理をして、最後に庭の雨水を貯めた水で洗い、最後にきれいな水を使ってすすぎ、仕上げに日本酒を使って、拭き取りました。

兄弟でも、性格は本当に違っていて、二男はダイニングテーブルの下で漫画を読んだりしていたのですが、長男は庭のテーブルでチェスを始めました。(余震は勿論あります)

主人は前日の過激な(笑)サイクリングで、へとへとになっていました。それでも、少しずつ、家の中の片付けを始めました。私と長男は、頭がかゆくなり、お風呂の残り湯(実際はかなり冷たい水)で頭を洗いました。その、冷たい事、キンキンして痛かった洗髪でした。空気が乾燥していたので、乾くのはあつと言う間でした。

原始的な生活になった私達は、暗くなると、天日干し?したソーラーライトを取りこんで、家の中でラジオを聴きながら、眠りました。初日からずっと同じ服を着て、そのまま寝る暮らしです。幸い、何故か、とても乾燥をしていて、汗は殆どかいてはいませんでした。

ラジオだけの情報の中で、今回の被害の大きさはまだ私達には実感がありませんでした。この日の夕方か次の日の朝の新聞か?忘れましたが、初めて、新聞を見て、愕然として、涙が溢れました。亡くなった方には申し訳無いばかりなのですが、自分達は命もあり、家族も無事で、家もある事に心から感謝をしました。それは、不運と幸運を同時に感じた瞬間でした。

2011年 3月14日(月)

{ DAY 4 }

朝、私の義理の姉から電話が入りました。

義姉：ひろしさんが、今日の夜中深夜の一時過ぎにこちらを出発して、そちらに向かいましたから。

私：え〜っ、本当ですか？

私は驚きました。大丈夫だろうか？主人も息子達も、本当か？どうやって、来るのかしら？しかも、今まで来た事のないこの日立に・・・・・・

兄の心配をしながら、私達は小学校のプールの水をバケツで汲む作業にかかりました。年配の人達の代わりに、近所の息子さんや、我が子達も運ぶのを手伝いました。そこへ、近くのアパートに住む若い、外見は少し怖い家族が、近所の人達のために、自分達がモーターで汲みあげた水を配っているのを見かけました。本当に親切な彼等の行動に、心が温かくなりました。幼い子供が二人、トラックの座席にいるのを見かけた私は彼らにジュースとお菓子をあげました。美人な若いお母さんがお礼を言ってくれましたが、彼等の行為こそが素敵な行為でした。

テレビでも報道された様に、日本人も捨てたものではありません。特に、若くて、強面の人達の多くはとても優しい人が多く存在しました。人は外見では判断できません。

実は、私達世代、そして、それ以上の年配の人の中には、何人かの不屈き者が、実はいました。文句ばかりを言い、順番を守らない人が・・・・その姿は、とても情けないものでした。

人間は面白いもので、不幸に見舞われた時に人の性格（心）が表面化します。それは、おもしろい程にあらわになります。私の中で、色々な人を篩にかける様な体験になりました。自分の事しか考えていない人と、相手を思いやる心のある人、そんな人格の違いをはっきりとさせました。

電気の復旧が近づいていると言う情報を、息子が入手してきました。兄がどこまで到達しているのかも、気にかかりました。夕方になり、兄からの連絡が入りました。近くの多賀駅まで、車で行って合流する事になりました。主人と息子が兄と合流する為に出かけた直後に、明かりがつかしました。どうやら、兄は、電気まで、持って来てくれたようです。（電気が復旧しました）

兄が我が家に到着した時には、明かりがついていました。兄は、たくさんの支援物資を運んで来てくれました。危険を顧みず、遠路はるばる、愛知県から茨城県北部の日立まで、(700キロ以上?) 20時間以上もかけて、来てくれました。私は勿論の事、息子達も主人も本当に感謝をしました。同時に、兄を送り出す事に賛成をしてくれた、兄嫁や姪（兄の娘さん）にも、本当に感謝をしました。ほんとうに、ありがとうございます。兄が、来てくれた事で、食料の買い出しからも解放された事も勿論ですが、何より、兄が来てくれた心が私達の心を本当に、支えてくれました。

((ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとう))

兄を交えて、ささやかな？夕食をとりました。昨年、旅行した際にイタリアで買った、インスタントのリゾットとおにぎり等をたべました。

その日は、兄も、同じリビングルームで寝ました。兄は、余程疲れたのででしょう、すぐに、寝息をたてていました。((ありがとう))

ちなみに、兄と息子達が会うのは、7、8年ぶりでした。

2011年3月15日(火)

{DAY 5}

朝から、小雨模様、ところが、朝から問題が・・・

原発の爆発問題！兄は物資を届けて、直ぐに、帰る予定でいたのですが、放射線の問題が発生したために、帰るのを、すこし変更する事を私達は提案。とりあえず、兄が持参してくれたガソリンを主人の車に注ぎましたが、今度は東京でガソリンパニックがおきているとの情報。電気が復旧した事で、私達もテレビを見て、今回の災害の酷さに思わず涙がでました。さて、困りました、兄が愛知に帰るにも、ガソリンを補給する事が出来ないと知り、色々な人に電話で聞いてみるも、全てだめ。

もちろん、日立でも手に入らない。とりあえず、放射能の問題もあるので、今日、愛知へ出発させる訳にも行きません。もう一度、主人や私の車からガソリンを抜き取る作業もしてみるが、不可能でした。おまけに、長野や静岡でも地震。

((どうしたら、いいの?))

今日は一日兄を引きとめて、色々な人に情報を尋ねました。長男の友人にも、色々情報をもらいました。((ありがとう))

東京で、(首都圏)で、何がおきているの？東南海地震への連動への恐怖から？原発の恐怖から？その気持ちは分からない事はないけれど、本当に困りました。そして、兄の家族に対して、本当に申し訳ない気持ちになりました。

((本当に、心配をおかけしました。本当に、ごめんなさい!))

兄は、口では大丈夫と言っていました、その心の底には不安感がある事が、私には分かりましたから、本当に、申し訳なくて、仕方がありませんでした。

自分の危険も顧みず、馬鹿な妹の為に、こんな目に遭わせて、ごめんなさい。

息子達も、本当に申し訳ないと感じていました。

その日は兄が持って来てくれた貴重な食事を美味しくいただきました。

((原発って、何？爆発？広島?))

そんな不安を抱えたままで、その日は寝ました。

2011年3月16日(水)

{DAY 6}

朝目覚めると、雨はやんでいました。兄は今日は帰ると言う事にしました。ガソリン問題は未解決のまま、夜に出発するのは危険すぎるからと止めた私達も、これ以上、兄や兄の家族の心配があるので、兄の出発を必要だと感じました。

兄は、ガソリンの入手できる確約も無いままに、日立を出発しました。

兄の出発にあたって、私は泣けました。本当にありがとう！この恩はずっと忘れないよ！息子達も同じ気持ちでした。兄や兄の家族に何かあった時は、今度は私達が駆け付けると、強く思いました。

兄の事が心配で、私達は自宅で待機をして過ごしました。

息子達は自転車でガソリンを探すも、ゼロ！

息子達の友人から原発の放射能の危険性の情報が入るも、何が何だか分からない状態。

息子達も、友人達からの情報に恐怖を抱き始めて、避難をする事が話題にのぼってきた。

長男；おじちゃんがガソリンを持って来てくれたから、パパの車なら、東京迄は行けるかも知れないから、俺のアパートまで、猫や犬を連れて行こう。

私：猫は無理、病気を抱えているし、犬も大型犬だし・・・

息子達：荷物を余り持たなければ、犬も猫も連れていけるよ。

私は考えて、答えを出しました。

私：パパの会社の高萩や相馬の人達は、工場の近くで避難もせずに暮らしているのだから、パパは社長だから、そんな事は出来ないし、私も行かない。君達だけで行きなさい。

息子達：お母さん達が行かないなら、俺達も行かない。

私は近所に住む、一人の人を思い出しました。その人のご主人は名古屋大学の原子力の学部を卒業した人で、その人に聞けば良いと思い出しました。

案の定、原発の問題は、大丈夫との事、日立はかなり離れていますし、問題は無いし、彼女達が逃げる判断をした時にはこちらにも、連絡をするから・・・心配はいらぬ・・・と。

専門家の話を聞いて、私達は本当に安心をしました。

日立の道は東京への上り車線が、渋滞をしながら進んでいました。車のナンバープレートには、福島のナンバーが多く見受けられました。

私達は、少しでも、ガソリンを使わない為に自転車と徒歩で健康的？（笑）な暮らしを続けました。

常磐線、（電車）のレールはまるで蛇のようになっていて、復旧はいつになる事やら、高速道路や、多くの道路、橋は通行止め、私達は陸の孤島に居る様な有様でした。

少しずつ、私達も疲れが出てきました。

夜遅くに、一つだけ、良いニュースが入りました。

兄が、無事に、家に到着しました。

かなり苦勞をした様子です。本当にありがとう。

2011年3月17日

{ DAY 7 }

兄が滞在中は、不思議な程に余震の数が少なかったのに、再び連続的に余震が始まりました。ところが、余震慣れ？の状態になって来ていました。以前なら、震度3、でも揺れを意識していましたが、震度5弱でも、何だかそれ程怖いと思わなくなってきました。ただ、揺れていないのに、揺れている様な感覚も時々ありました。ゴンと言う音の後の余震は震源地が近くて、ゆらゆら揺れる余震は遠方に余震だと分かる程になってきました。（笑）

原発の問題は、相手が見えないだけに、不安がありました。同時に、一体いつまでかかるのか？と言う精神的な我慢が大変でした。テレビで、東京の人が関西や九州に逃げていると言っているのを見て、何だか滑稽な気持ちになりました。

私達の居る日立よりも、もっと原発に近い人もまだまだ現地に残っているのに、何で、東京の人が？と不思議な気持ちでした。国外に逃げた人もいました。

((ありゃりゃ、どーなってるの?))

この日、私達にもう一つの光が来ました。

ガスが復旧しました。台所で調理が出来る様になりました。あとは、水道だけです。息子達が得た情報によると、水道も近くの町まで、復旧して来ているとの事。電気、ガス、段々と、復旧する度にとにかく笑顔になりました。

((早く、普通の暮らしがしたい。))

多くの人達が同じ気持ちでした。そして、この気持ちは私の心に大きな発見をもたらしました。

((普通の暮らしって、幸せな事なんだ))

今回の地震は私に多くの事を教えてくれましたし、多くの事を考えさせてくれました。被災地では無い人達にとっては、被災地は不幸、不運以外の他は無いと感じると思いますが、実は、今回の災害は私にとっては、幸せが何かを教えてくれた機会になりました。(それは、ある意味ではお金では買えない幸運？でした)

人は、時には悩み、不平不満で心が満杯になり、自暴自棄になったり、人生を悲観したりすることがあります。時には、楽になりたいとさえ思う事さえあります。人間関係に疲れたり、悩み苦しみ、自分が見えなくなります。

今回の災害で、本当に大変な状況になった人々も莫大な数になるかと思えます。しかし、そんな人達の中には、私の様に、小さな光を感じた方々もいたのではないのでしょうか？

私は、今回の災害で、自分の姿の一部が鮮明に見えた様な気がします。

そして、それらの多くの体験や考えの先に出た答えは、“素直”に生きるという事でした。

2011年3月18日(金)

{ DAY 8 }

我が家にも水がきました！水道が復旧しました。少し、給水管に割れがありましたが、直して頂きました。一週間振りのお風呂！

家族が全員入浴した後のお風呂の底には、茶色い泥が溜まっていましたが、それは給水管の中に入ってしまった泥でしたが、本当に気持ちが良かった~~~~！

原発の問題、電車の問題、ガソリンの問題、物資の不足はありますが、電気、ガス、水道の復旧は人々の心にゆとりを与えました。まだまだ、それらのライフラインが復旧していない地域の事を考えると、申し訳無い気持ちになりました。段々と、色々な被災地の状況も分かり始めました。

主人の会社は幸いな事に被害は殆ど、ありませんでした。ただ、相馬の子会社の従業員の中に、津波で命を落とされた方が一名、家族を亡くされた方もみえました。遠方へ避難された方、家を無くされた方がいました。その方達には、何と言葉をかけたら良いのか未だに分かりません。

主人が出来る事は、早く会社を再起動させて、従業員の方達に職場をつくり、収入の道をつなぐ事でした。私が出来る事は、主人の手伝いをする事でした。(救援物資の買い物位ですが) 私達はガソリンを探しました。

2011年3月31日(木)

{ DAY 20 }

余震は続いています。原発問題も相変わらずです。

今日までの日記はノートに書き続けていますが、皆さんへのお礼の気持ちとして、震災から一週間の体験を文字にしました。今はまだ、被災地は災害の後遺症?が続いていますので、皆さんにお礼もままなりません事をお許してください。

今の現状は、会社も再起動をして、着実に一步を踏み出しています。この一步がいつか大きな一步となる事と感じております。

主人は東奔西走、経営状況も順調で、製品の納期に振り回されている様子です。私は節約引きこもり(笑) これを書いています。(笑)

決して、元通りの暮らしではありませんが、電車が復旧して、ガソリンも手に入ったら、皆さんにもお礼が出来ると思います。今しばらく、お待ちください。

皆さんには本当に感謝をしております。心の底から感謝の気持ちが溢れてきます。

我が家の庭の草木は、地震も原発もまるで関係が無かったかの様に、新しい芽を伸ばしています。花も咲かせています。

私からの願いがあります。

それは、いつか、全ての物事が終わった時、どうか、皆さん、被災地に旅行をしてください。そして、被災地の食材を購入してあげてください。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

最後に、多くの人達がまだまだ切なさに心を痛めてみえます。そんな方々に優しい言葉を差し上げてください。“大丈夫?” その一言は大きな力を持っています。

西 典子 日立より、愛を込めて♡

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信 27号

みなさん、「障害児・者サポート手帳」もう手元に届きましたか。

この手帳は、茨城県手をつなぐ育成会が、医療機関の受診時等に役立つよう

にと、3年の時を掛けて、医療関係者等の意見を聞き編集した手帳です。

茨城県より、素晴らしい手帳であり全ての障害児・者へ配布をしたいとの

ことから、茨城県より発行の運びとなりました。

手帳の特徴は、できるだけ使いやすく編集されていることです。

受診等の際提示し、障害について正確に知らせることにより、適切な診察・

治療が受けられるようにすることを主な目的としています。



表



裏

手帳の配布は、各市町村の障害福祉担当課、各市町村の社会福祉協議会、県内各地の手をつなぐ育成会が行っております。

みなさん、ぜひ活用してくださいね。

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信 28 号

第 1 3 回茨城県ゆうあいスポーツ大会が、5 月 2 2 日笠松運動公園で開催されました。



前日の天気予報では午後 3 時ごろより雨になるとのこと、朝から空は晴れたり曇ったり、わたしの記憶では第 1 1 回雨、第 1 2 回曇りのち雨、そして今年も雨が降りそうです。

そのため、会場では「第 4 種目の『となりへポイ』が中止になります」とのアナウンスが流れていました。何とか競技が終わるまで雨が降らないようにとみなさんが願っていました。みんなは早く「始まらないかなー」、上の写真はそんな気持ちで待っていますね。

開会式の長ーい長ーい長ーい来賓紹介、開会式終了後、やっと第 1 種目『あいこも負けよじゃんけんポン』が開始、息子の前に村山さんのおかあさんと沙友梨ちゃんがいました。じゃんけんポンの 1 回戦は息子も沙友梨ちゃんもグウ👊で勝ち、2 回戦はチョキ👉とチョキ👉のあいこで 2 人とも負けてしまいました。残念。結果は 4 回戦ともグウ👊の勝ちでした。

第 2 種目は『大玉といっしょに』、益子大地君をさそって出場、赤組、青組、白組、そして我らが黄組、例年は 2 回行われる競技が 1 回になり、一発勝負で 1 番になり 1 5 点獲得、でも大玉は益子大地君の目の前を一瞬のうちに通過、一寸だけ触れた、かもしれない。



ゲット

← 競技中に橋本知事が見えられましたよ。

第 3 種目は『ゆっくりいそいで GET だぜ』、みんな張り切って出場、「息子も張り切って出場してるかな」、と家内に言うのと知らないとの事、息子行方不明、間もなく息子涼しい顔でテントに戻る。1 人でトイレに行っていた模様、どおりで涼しい顔【訂正、涼しい顔→サッパリした顔】ゲットをしていました。(笑笑笑笑笑笑笑笑笑笑) したがって『ゆっくりいそいで GET だぜ』には最終組でした。何処へ行ってもものんびりした息子です。

お弁当、おいしかったですね。お弁当を食べながら茨城県立大洗高等学校マーチングバンド部 BLUE—HAWKS の演奏を聴きました。素晴らしかったですね。

最後の種目『みんなでうたおう』、歌って、踊って、笑って、楽しかったですね。

また来年もみなさん集まってください、お願いします。

社協の方、市の福祉課の方、お世話になりました。ありがとうございます。

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信 29 号

平成 23 年 6 月 1 日水曜日、茨城県総合福祉会館 4F大研修室にて、平成 23 年度茨城県手をつなぐ育成会評議委員会が開催されました。



鈴木金一郎会長あいさつにはじまり、茨城県保健福祉部障害福祉課長鈴木克典様、茨城県教育庁特別支援教育課長飯塚裕治様、お二人の来賓あいさつをいただいた後、評議委員会が行われました。評議委員会終了後、「障害者の就労支援について」というテーマで、茨城県保健福祉部障害福祉課主任大窪浩一郎様を講師として、説明会がありました。

評議委員会では、次の事項が承認されました。

- (1) 平成22年度事業報告について、
- (2) 平成22年度決算について
－ 監査報告 －
- (3) 平成23年度事業計画(案)について
- (4) 平成23年度予算(案)について
- (5) 創立50周年記念事業について
- (6) 役員改選の取扱いについて

役員改選の取扱いについては、本年度は役員改選の年に当たるが、茨城県手をつなぐ育成会50周年記念事業が控えている為に、特例として、1年間の役員改選見送りが承認されました。

茨城県手をつなぐ育成会50周年記念事業のなかに、記念講演があり、講師に【元一万キロソウルオリンピックランナー、現熊本市議会議員】松野明美様がみえることになっています。

演題は、「人生は一番でなくてもいい～生まれてきてくれてありがとう～」(仮題)です。日時・場所は次のとおりです。

日時 平成23年11月18日(金)

場所 茨城県立県民文化センター・小ホール

時間 午前10時から 50周年記念式典開始

みなさんには、前に松野明美様の本を会報『知ってますか』の「いちばんじゃなくて、いいんだね。」でご紹介いたしております。

まだお読みでない方は是非、図書館に足をお運びください。

当日は、多くの方が出席されることと思います。
すばらしいお話が聞けることと思います。楽しみですね。

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信 30号

平成23年6月4日土曜日、午前8時48分、18分遅れで、55名を乗せた2台のバスが総合福祉会館を出発、本日は晴天なり、那珂インターより常磐自動車道に乗る。

バスの中はみんな鉄道博物館が楽しみいっぱいの模様、どんな所なんでしょうね。
最初の休憩所友部サービスエリアに到着、道路が空いていたので時間は日程表どおり。
休憩して一息つき、『出発進行』、気持ちは鉄道モードに入ってます。
2回目の休憩の守谷サービスエリアでも、皆さん時間厳守で予定どおりに出発できました。
JR東日本に負けないような時間厳守でした。
さすが鉄道博物館に行く、鉄道モードですね。
守谷サービスエリアで「頭上の鉄道は何かな。」と中村静江さんに聞いたら、「つくばエクスプレスですよ。」との答えでした。
ここでも、鉄道モードですね。
東京外環自動車道から首都高埼玉大宮線に乗り継ぎ、渋滞に巻き込まれる事もなく無事予定時刻の午前11時30分に到着、バス駐車場は観光バスでいっぱいでした。
いよいよ入館です。

館内は人でいっぱい、みんなはもう興味津々です。
チケットをもらい入館、いきなり見た事の無いレトロな機関車(1号機関車)、隣には又してもレトロな機関車(弁慶号機関車)、息子呼んで記念写真、振り向けばみんなの姿は消えていた。
この広い博物館、既にバラバラの気配、みんなに追いつくの諦め、息子の手を引きマイペースの見学モードにシフトチェンジ、のんびりのんびり息子と二人旅(二人で見学)。
偶然、1日2回のC75形式135号機蒸気機関車の回転実演見学、息子はポーポーポーと鳴る汽笛の音に喜んでいました。
135号は蒸気機関車仲間では一番最後まで人を運んだ機関車だそうです。
私は蒸気機関車が引いていた木造の客車が懐かしかったですね。



息子がお腹空いたというので、テーブルのあくのを待って駅弁(何処の駅弁だったか覚えていない、とんかつの弁当だったなー、あまりおいし……でも完食。笑泣笑泣笑泣笑泣笑泣)を食す。
D51形式蒸気機関車のシミュレータが有り、息子は順番を待って運転席に、気に入った汽笛を何回も鳴らしていました。(D51シミュレータは有料なのになぜか無料だった。)

広すぎて全部はとて見ることができませんでしたね、
帰路も渋滞に会わず、無事、予定より1時間も早く帰ることが出来ました。
ボランティアのみなさまありがとうございました。会員の皆さんお疲れ様でした。

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信 31 号

たまには育成会とは関係の無い、私の読んだ本の紹介をします。

みなさん 8月15日って何の日だかご存知ですか？

「終戦記念日」だと、多くの方はお答えになるでしょうね。

でも戦争は終わっていませんでした。

8月15日戦争は終わり、そして3日後起こるはずの無い戦争が始まったのです。

ソ連と日本の間には不可侵条約があった事は知っていますか？

不可侵条約をソ連が一方的に破って戦争になったのです。

千島列島最北端の孤島国境の小さな島、占守（シュムシュ）島で、ソ連が、不可侵条約を破って満州や南樺太・千島列島を攻撃、ソ連から仕掛けられ始まった戦闘なのです。

自分の身を守らなければならなかった戦争、生き延びて家族のもとへ帰るための戦争。

占守島の戦いの期間は1945年8月18日より8月21日まで、終戦の8月15日以降も国家の意思が伝達された末端組織として、満州や南樺太・千島列島では、日本軍部隊が自分の身は自分で守れと言う大本營の無責任な命令の自衛的戦闘が命じられていたわけです。この戦争は自発的な愛国心だけで行われた戦闘ではないのです。

妻や子どもに会うため、老いた母に会うため生きて家族のもとへ帰るための戦争です。

浅田次郎の「終わらざる夏」の登場人物の様に、実際には多くの人々がこの戦争が早く終わって欲しいと思っていたはずです。

満州や南樺太・千島列島占守（シュムシュ）島戦争が終わった後もソ連によりシベリアの極寒の地に送られ多くの人が命を落としました。

『終わらざる夏』は、終わらせようとした戦争が終わらずに多くの命が奪われた戦争です。

何度も何度も、涙で文字が読めなくなりました。

一人でも多くの人に読んでいただきたい本です。



上下2巻で綴られるのは、戦時下においても今日と変わらぬ人々の暮らしがあったであろうとおもう、今日と異なるのは、息を殺して自由な会話ができず、「戦場へ行くのは嫌だ」と言えない日本の社会状況の中、「赤紙（召集令状）」1枚で戦場へと送り出された男達、残された老いた母、そして妻、そして疎開した児童と教師たち、またみんなが戦場に送られる人たちのことを身近に感じていたことでしょう。各家に、一銭五厘の葉書1通1通赤紙（召集令状）を届けた役場の職員、その名簿を作成し、また戦死の内報を書いた在郷軍人、青年将校、そしてソ連軍の兵士にいたるまで、膨大な数にのぼる、個々の人間の戦争の様子を、詳細に浅田次郎は綴っていますよ。

皆さんも是非お読みください。

参考資料 インターネットWebより
終わらざる夏 本表紙

常陸太田市手をつなぐ育成会勝手に通信 32号

平成23年8月27日土曜日、午前8時5分、36名を乗せた1台のバスが総合福祉会館を出発、本日は曇りなり、震災による高速無料措置により那珂インターより常磐自動車道に乗り、北関東自動車道を経由し東北自動車道、日光宇都宮道路で今市へ。

おかげで計画より1時間も早く鬼怒川へ着き、日光猿軍団公演時間の12時30分より前に、バーミヤン今市店にて昼食をする事になりました。

★曇っていた空が、今市に着く頃には涙を流し始めていました。

早めの昼食ですが、沢山のメニューの中から、みんな思い思いのメニューで予算を考えながら上手に注文できました。我が息子計算が出来ないので、食べたい物を指差すも、予算オーバーにより却下、それでもめげずに次メニューを指示、すぐ却下、牛肉入り炒め物で息子妥協、平和に解決。あっという間に息子完食、テーブルによっては注文の品がまだ届いていない所もある。

★日光猿軍団公演時間に何とか間に合い見学、会場はほぼ満席、息子ばかりではなく皆、お猿が何を始めるのか興味津々、身を乗り出している。ものすごく楽しそうでしたね、息子は特に亀のきぐるみを着たお猿の動作が気に入ったらしく、私が「亀さん」と言うと、右手を上げ、お猿さんのまねをして笑わせます（笑笑笑笑笑）。

★次に向かったのが丸彦製菓工場、（雨はまだ降り続けています。）残念ながらお客がいっぱいの為、焼きせんべい体験は出来ませんでした。その代わりに、試食しながら時間をかけ、おせんべいの品定めをして、予算どおりに買い物を十分にたのしむ事が出来ました。（私と息子試食をおおいに楽しむ。笑笑笑笑笑笑笑）

★そして本日宿泊する鬼怒川グリーンパレスへ到着、ホテルには、沢山の宿泊客がいてチェックインに時間がかかりましたが、みんなはきちんと待っていてくれました。

宿泊客が多い為食事は二部制にしてあり、後半の7時30分よりの部にしたので、食事前に皆お風呂に行く事が出来ました。菊地会長さんは、6,7人の子ども達をつれて温泉のお風呂に行かれました。幾人かの背中を流し、話し相手になっていたようです。

★バイキングの食事には、皆大喜びです、ビールもお酒もソフトドリンクも飲み放題です。

「〇〇さんその凄い大盛全部食べられますか?」「大丈夫?無理しないでね。」「何回も御代わり自由だからね、一度に沢山持ってこなくても大丈夫だからね。」

心配ありませんでしたね、美味しそうに完食していました。もちろんデザートも完食。

★朝食もバイキングで、夕べお腹いっぱい食べたのに、息子は良くこれだけ食べられるものだというほど、バイキングの第2ラウンドも完食していました。



ボランティアさんありがとうございました。会員の皆さんお疲れ様でした。